

# ロボットを取り巻く環境変化と今後の施策の方向性

## ～ロボットによる社会変革推進計画～

背景

- 「ロボット新戦略」（2015）：ロボットに関する施策を網羅的に提示（分野横断施策と個別具体分野で構成）
- 「ロボットによる社会変革推進計画」（2019.7）：ロボットを取り巻く環境変化を踏まえ、上記戦略の更なる推進にも繋がる分野横断施策を検討、体系化。

環境変化

世界市場	日本製ロボット	国内の導入状況	新規プレイヤーの参入
<ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>産業用ロボット：5年で2倍（38万台）</u></li> <li>●<u>年平均14%成長</u></li> <li>●<u>日本：5年で1.6倍（5万台）</u></li> <li>●<u>中国：5年で5倍（13万台）</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>世界シェア：6割弱</u></li> <li>●<u>日本製ロボットの8割弱は、国外向け</u>（国外向けの3割は中国向け）</li> <li>●<u>中国市場の日本製シェア：5年で65%→44%</u>（中国製：13%→27%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>導入密度：308台（従業員1万人当たり）</u></li> <li>●<u>日本は4位</u>（1位韓国（710台）、2位シンガポール（658台）、3位ドイツ（322台））</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>社会と繋がるツールとしてのロボット（アバターロボット）</u></li> <li>●<u>大学発ベンチャーの台頭</u>（例：Universal Robots（2005年設立、デンマーク）は世界シェア1位の人協働ロボットメーカー）</li> </ul>

- 様々な課題に対応できるシステムインテグレータ（メガインテグレータ）を育成し、**ロボットの社会実装を更に推進**
- 産学が連携し、**人材育成やロボット技術の更なる高度化を目指す**

今後の施策の方向性

### エコシステムの構築、協調体制を創出（ユーザー、メーカー、システムインテグレータ、大学、高専等）

#### I. 導入・普及を加速するエコシステムの構築

- 業務プロセス、データ連携等の標準化、安全性、ビジネスモデルの整理
- 中小企業等へのロボット導入に向け、自治体、金融機関等地域との連携促進

#### II. 産学が連携した人材育成枠組の構築

- 産業界と高専等が連携し、教員への支援等を実施する体制構築
- スキル標準の海外普及
- システムインテグレータに係る技能検定職種の創設等

#### III. 中長期的課題に対応するR&D体制の構築

- 産業界が協調し、産学連携して基礎・応用研究を実施する体制構築
- AI等各コミュニティの緊密な連携、社会実装に向けAIが活用されやすい環境整備

#### IV. 社会実装を加速するオープンイノベーション

- 2020年以降もWorld Robot Summitを開催
- 産業界の強いコミットメントを得つつ、大学等のシーズをビジネスに繋げる仕掛け検討。2024年頃の実施を目指す